

政治・経済・軍事・外交・文化……。
史料の発掘が十分でない「中支」地域を中心に、
多岐にわたる連続的なデータをも豊富に収録。

◆監修◆金丸裕一

財団法人東洋文庫研究員
立命館大学教授

全十三巻

中國年鑑・大陸年鑑

刊行のことば

財団法人東洋文庫研究員
立命館大学教授

金丸裕一

雑駁な史料を丹念に追跡して読解することにより、予想外の収穫が得られることは多い。その当時にはまだ生まれていなかった、あるいは幼少期で社会性が備わっていなかった我々が、近現代史を学ぶにあたり最も苦しむ作業は、「時代の空気」への洞察である。図書館に籠もり新聞や雑誌のバックナンバーをブラウジングしていても、時には記事中の語義ですら微妙なズレが生じている事例もあるので、古い辞典なども手元から離すこととはできない。こうした地道な営為を重ねながら時空の息吹を体感しつつ、のんびり史料を読むようにここがけたいというの、歴史家に共通する願望であるだろう。

今回、わたくしたちが復刻の対象に選定した『中國年鑑』と『大陸年鑑』は、ハンディな二次史料ではあるけれども、いくつつかの意味において、大きな役割を果たすものと期待している。以下、簡単にそれを述べておこう。

第一に、一九三〇年代から一九四〇年代にかけて、とりわけ日本占領下におかれた地域の同時代を報じる新聞や雑誌類は、かなり閲覧が困難である。国会図書館や東洋文庫に出かけたにしても、マイクロでの調査が中心となり、なかなか時間の調整も難しい。

これと関連して第二に、「中支」関係史料そのものの発掘が十分に進んでいなかった背景があげられる。戦後のわが国においては、「満洲」関係の史料・文献に対しては、相対的に高い関心が払われ、その関連で「北支」を含む地域の素材は、多くが復刻・解題を通じて陽の目をみた。しかし、関内(旧「満洲国」や蒙古を除く中国本土)におけ

る在留邦人数のレコードを維持した上海については、東亜同文書院や東亜同文会の刊行物はさておき、近年になりようやく本格的な史料整理が着手された段階にあるといえるだろう。

したがって第三に、上海からの定点観測を継続した『中國年鑑』と『大陸年鑑』は、かかる史料の脆弱性を補強する、優れた年次報告と位置づけられる。『中國年鑑』の編纂にあたった上海日報社は、一九〇三(明治三六)年末に創刊した上海新報社を翌一九〇四(明治三十七)年七月に井手三郎が買収、日刊紙としての歩みを続けた。一九二九(昭和四年)十一月には波多博がこれを買収受け、およそ三、〇〇〇部程度を発行していたといわれる。日中戦争勃発時に社屋全焼などの損害を被るが、戦争の拡大とともに『上海日報』、『上海日日新聞』、『上海毎日新聞』の主要紙は新聞統制により統合、一九三九年元日より、『大陸新報』が新たに創刊され、年鑑の名称も『大陸年鑑』と変わった。ふたつの年鑑は、実質的には同一系統の新聞社によって刊行され続けてきたと言えるのである。

復刻にあたり、最終巻の末尾には「各種統計資料索引」を新たに編集して附録とする。これを一瞥しても、上海を拠点とした定点観測の真骨頂が読みとれるものと断言したい。

無論、同時代の日中関係史を考えた場合、ふたつの年鑑にはわが国の「国策」と「国益」が深々と刻印され、中立的立場で歴史を語る材料とは言い難いだろう。しかしながら、圧倒的に記録が不足する状況下、政治・経済・軍事・外交・文化など、多方面に及ぶ連続的なデータを活用できるか否かは、むしろ使用する側の力量とセンスに規定されているようにも思われる。

いずれにせよこの年鑑は、日本史と中国史が最も密接に関わり合った時代を再現する際、必見の工具書として、大方による積極的な利用を待ち望んでいるのである。

◆本書の特色◆

- 1931年(民国20年版)から1944年(昭和20年版)にかけて、同一系統の新聞社から毎年刊行(第二次上海事変期を除く)された、満州事変から太平洋戦争末期までを網羅する貴重な年鑑。
- 現在でも史料の発掘が十分でない「中支」地域を中心に、政治・経済・軍事・外交・文化などの多岐にわたる連続的なデータを豊富に収録。
- 一次史料を採求する際の水先案内として好個の二次史料。
- 在上海の日本企業の広告も多数収録。
- 最終巻巻末に「解説」「各種統計資料索引」を付す。

原寸本文見本

●上海市工場工人一時間の工賃率と 毎月實際収入と毎日工作時間表

(上海市府社會局調査民國十八年中の統計)

	榨油		製蛋	
	男	女	男	女
工賃率	1.52	1.31	1.52	1.31
月實収入	1.52	1.31	1.52	1.31
日工作時間	1.52	1.31	1.52	1.31

一八

中國重要日誌

(自民國二十年一月一日
至同二十一年六月三十日)

民國二十年一月

▲一月一日 中華民國々定輸入税々則は愈よ實施せらるることとなつた。全國に太陽曆を實行せしむることとなり、全國各州は新曆元旦を祝つたが單に形式的に過ぎなかつた。蔣國民政府主席は南京飛行場で閱兵式を舉行各國の公使もすべて參列した。國民政府は政治犯大赦令を公布し同時に國民會議代表選舉法及び授勳令を頒布した。この日國民政府主席蔣介石の發表した「國民に告ぐるの書」が全國に於いて農業と教育に注意すべき旨を力説した。國民政府からは各省長官に對し釐金の撤廢を通令した。東支鐵道が露支文の

兼用を實行した。

▲一月二日 蔣國民政府主席は南京より上海に著。

り上海に著。

▲一月三日 駐米公使伍朝樞が米國務院の要人と會見して領事裁判權の取消を督促した。中露國交斷絶後閉鎖された北平の露國大使館、天津の總領事館は平津地方が東北の勢力圈内に入つた爲奉天駐在ロシア總領事よりハバロフスク協定第五條に基き東北當局とその復活交渉を開始しその結果近く同機關を復活實現することとなつた。

▲一月五日 中央黨部が本年に於ける第一回紀念週を舉行席上蔣主席より本年は特に努力せざるべからざる旨演説した。國府内政部長劉尙清就任。沙市の下流右岸各地に於ける共匪の跋扈により航行船舶の被害少なからざるものあるため宜昌英國領事は徐源泉に對しその討伐を要請した。

▲一月六日 山東省政府は濟南市政府の撤廢を命令した。豫て國府と交渉中であつた南京、漢口兩事件は最近漸く解決を見た旨幣原外相から閣議に報告した。國府會議は本年の外交方針案を討議した結果、(一)各國駐支軍隊の完全なる撤退(二)治外法權の撤廢による法權の自由及び獨立の獲得(三)漢

* (二点共)

【中國年鑑】一九三二—三三

民國二十一年六月三十日版

中國年鑑・大陸年鑑 全13巻

[監修] 金丸裕一 財団法人東洋文庫研究員・立命館大学教授

A5判上製/函入

●第1回『中国年鑑』全7巻 揃定価169,050円(本体161,000円) ISBN978-4-8433-2366-3 C3321

- ◆第1巻◆ 中國年鑑 1931 民国20年版 (1931年 上海日報社調査編纂部) ISBN978-4-8433-2368-7 C3321
- ◆第2巻◆ 中國年鑑 1932-3 民国21・22年版 (1932年 上海日報社調査編纂部) ISBN978-4-8433-2369-4 C3321
- ◆第3巻◆ 中國年鑑 1934 民国23年版 (1933年 上海日報社調査編纂部) ISBN978-4-8433-2370-0 C3321
- ◆第4巻◆ 中國年鑑 1935 民国24年版 (1934年 上海日報社調査編纂部) ISBN978-4-8433-2371-7 C3321
- ◆第5巻◆ 中國年鑑 1936 民国25年版 (1935年 上海日報社調査編纂部) ISBN978-4-8433-2372-4 C3321
- ◆第6巻◆ 中國年鑑 1937 民国26年版 (1936年 上海日報社調査編纂部) ISBN978-4-8433-2373-1 C3321
- ◆第7巻◆ 中國年鑑 1939 民国28年(昭和14年)版 (1939年 上海日報社調査編纂部・野田経済研究所) ISBN978-4-8433-2374-8 C3321

●第2回『大陸年鑑』全6巻 揃定価144,900円(本体138,000円) ISBN978-4-8433-2367-0 C3321

- ◆第8巻◆ 大陸年鑑 昭和15年(民国29年)版 (1940年 大陸新報社) ISBN978-4-8433-2375-5 C3321
- ◆第9巻◆ 大陸年鑑 昭和16年(民国30年)版 (1940年 大陸新報社) ISBN978-4-8433-2376-2 C3321
- ◆第10巻◆ 大陸年鑑 昭和17年(民国31年)版 (1941年 大陸新報社) ISBN978-4-8433-2377-9 C3321
- ◆第11巻◆ 大陸年鑑 昭和18年(民国32年)版 (1942年 大陸新報社) ISBN978-4-8433-2378-6 C3321
- ◆第12巻◆ 大陸年鑑 昭和19年(民国33年)版 (1943年 大陸新報社) ISBN978-4-8433-2379-3 C3321
- ◆第13巻◆ 大陸年鑑 昭和20年(民国34年)版 (1944年 大陸新報社) ISBN978-4-8433-2380-9 C3321

■全13巻揃定価：本体313,950円(本体299,000円/各23,000円)

ISBN978-4-8433-2365-6 C3321

日中関係史資料叢書 [監修] 金丸裕一

◎上海・南京という中国の心臓部華中を中心とする貴重史料を集成◎

抗日・排日関係史料 日中関係史資料叢書 1

—上海商工会議所「金曜会パンフレット」—
全11巻・別巻1●揃定価205,590円(本体195,800円)
上海日本商工会議所に集まった経済団体が発行した『金曜会パンフレット』。昭和4年～14年の「排日」活動の実態や日中間の情報戦を知る文献。

中国紳士録 日中関係史資料叢書 2

全2巻●揃定価50,400円(本体48,000円)
1942年刊行の満蒙資料協会(東京)編纂『中国紳士録(第2版)』の復刻。北中南支の日中両国官民各層の人名録。主要人物に肖像写真を付し13,300人を収録。

南京

日中関係史資料叢書 4

全1巻・別冊1●揃定価45,150円(本体43,000円)
日本軍南京進攻後の1941年、南京の日本商工会議所刊。概説、地理、歴史、交通、政治、経済、外交、居留民等の項目からなる。南京の基本資料。

大陸会社便覧 日中関係史資料叢書 5

全3巻●揃定価35,700円(本体34,000円)
『会社四季報』の中国版(昭和16～18年版)、東洋経済新報社京城支局刊。資本金100万円以上の企業を網羅、昭和17年版では940社を収録。有用な索付き。

中支那経済年報 日中関係史資料叢書 6

全5巻●揃定価129,150円(本体123,000円)
中支那経済年報刊行会編。現地で編集・出版の年報。現地の政治・経済界の動向を3ヶ月毎に徹底分析。現存の昭和17年・18年・19年版を収録。



〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL .03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
http://www.yumani.co.jp/
e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特におすすめしたい方● 大学図書館、日本近代史・中国史・アジア史・植民地史・外交史の研究者、関係研究機関など。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493		年	月	日	取扱店
ご注文書	中国年鑑・大陸年鑑 全13巻				
	<input type="checkbox"/> 第1回・全7巻(分売可) 揃定価169,050円(本体161,000円) <input type="checkbox"/> 第2回・全6巻(分売可) 揃定価144,900円(本体138,000円)		セット		
お名前					
ご住所					
	TEL	()			

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。